

会津七福神参り

石田明夫

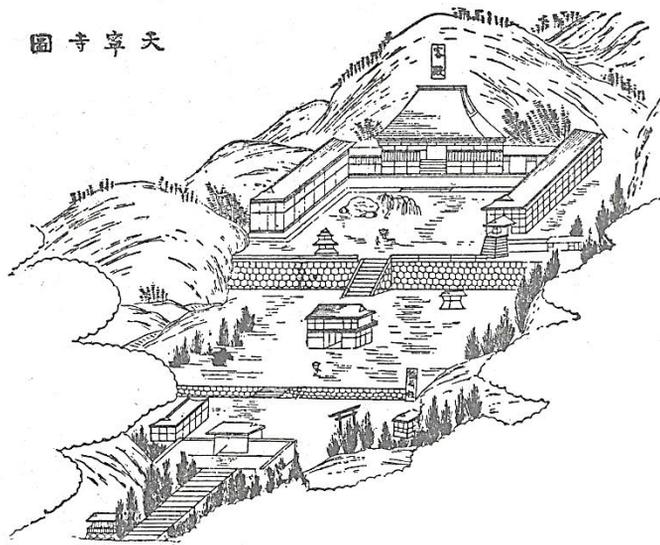


福島県河沼郡柳津町 福満虚空蔵尊



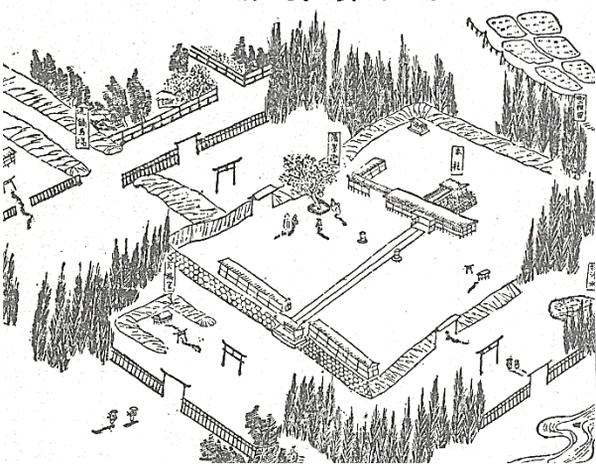
会津七福神参り

天寧寺圖



天寧寺 毘沙門天
戊辰戦争焼失前

伊佐須美神社圖



伊佐須美神社 寿老人
会津総鎮守。戊辰戦争焼失前

会津でも江戸時代からあったとされていますが、現在の物は、昭和六十二（一九八七）年に、会津の霊場の一つとしてできたものです。

七福神とは、宝船に乗った七人として知られています。

日本の
インド・ヒンズーの
「恵比須」 正直な目出度い福の神
「大黒天」 福徳・蓄財の神
「弁財天」 女神、夫婦円満、子授けの神

中国の三仙人
「毘沙門天」 仕事や武運の神
「布袋尊」 商売繁盛や旅行の實在した僧
「福祿寿」 財運や健康、人望の仙人
「寿老人」 長寿、健康の仙人

福徳を願う庶民に信仰されていたもので、現在のように定まったのは、江戸時代、徳川家康が天海大僧正に依頼して定まったとされています。

七福神の宝船は、悪い夢を見ても宝船が、日本では紀州熊野の沖にあるとされた補陀落渡海（ふだらくとかい）に観音様の住む黄泉（よみ）の国に送り流し、良い夢や良い現実になるとされ信仰されています。

会津の七福神

- | | | |
|------|----------|--------------------|
| 弁財天 | 「長福寺」 | 郡山市湖南町大字赤津字寺ノ前四五九五 |
| 布袋尊 | 「大龍寺」 | 会津若松市慶山二丁目七二二二 |
| 毘沙門天 | 「天寧寺」 | 会津若松市東山町大字石山字天寧二〇八 |
| 福祿寿 | 「建福寺」 | 会津若松市建福寺前七二二 |
| 大黒天 | 「葉師寺」 | 会津美里町大字橋丸字橋爪九四 |
| 寿老人 | 「伊佐須美神社」 | 会津美里町高田字宮林甲四三七七 |
| 恵比寿 | 「福満虚空蔵尊」 | 河沼郡柳津町柳津字寺家町甲一七六 |





柳津

■会津を知る

●会津地方の大きさは、約五千六百八十八平方キロメートル。愛知県や、千葉県、和歌山県、石川県、山梨県より広く、全国二十六位愛媛県より広いのです。

●会津地方の人口は、約二十七万四千人です。

●人口密度は、一平方キロメートル当たり、全国最下位の北海道が、約六八・六人。会津は、約五〇・七人。北海道より人が住んでいないところでは、

●猪苗代や会津若松市湊町の地域は、青森県の青森や弘前と同じ気候。裏磐梯は、北海道の札幌や旭川と同じ気候なのです。

1 注意すべき心得

一、霊場がある場所の現状

江戸時代、会津では、独身の男性は飯豊山、既婚の男性は湯殿山、既婚の婦人は三十三観音を一週間から二週間かけて参拝する「講中」がありました。

会津七福神は、会津藩内の会津若松から日帰りできる距離に設定されたものです。戊辰戦争で天寧寺や建福寺が焼失したことなどから実施されなくなりますが、昭和六十二年に再興されます。

注意事項・厳守

- 1 服装は長袖、ズボンが基本
蚊や蜂、毛虫の予防と日焼け予防のため肌を出さないようにし、長袖シャツ、長ズボンが最適です。
- 2 クマ、イノシシなどの動物に注意
クマやイノシシとの遭遇もあるので山間部では、クマ鈴を持参しましょう。
- 3 マムシなどの蛇に注意
蛇もいるので足元に注意し、素足は隠しましょう。もしもの時は救急車を呼び病院に行きましょう。
- 4 山菜とキノコ
山菜やキノコも楽しみですが、食べられないものもあるので、判別は自分で判断せず専門家に鑑定してもらいましょう。
- 5 千社札（せんしゃ、ふだ）落書き禁止
参拝記念に貼る千社札と落書きは禁止です。

6 清水を飲む時

山間部には、清水もありますが、ピロリ菌があるので注意して飲んでください。御朱印

必ずもらえらるとは限りません。時間に余裕をもっていきましよう。

二、交通事情と車の選択

1 とにかく道が狭い

会津盆地の農村部や山麓部、山間部に堂があり、道は狭く、会津若松市慶山の「大龍寺」は大型車はもちろん、マイクローバスは、道が狭いので近くまではいけません。徒歩となります。

2 マイクローバスでも無理な所あり

「大龍寺」以外も、道が狭くまいため、大型バスでの移動は無理で、マイクローバスか、十四人乗りの中型が最適です。

3 坂道も多い

「天寧寺」「福満虚空蔵尊」は、急な坂道のため4WD車が最適です。

4 案内は専門家同行で

会津七福神参りは、ただ回ればよいというものではありません。寺の由来や地域の由来、自然や食の楽しみもありますので、案内できる専門家同行で回りましょう。



■堂の場所には意味がある

毎年、六月の夏至の日には、会津若松市高野町上沼・木流付近から東を見ると、磐梯山の山頂から日の出となります。その場所には、真言宗の木流馬頭観音堂が位置しています。それは、夏至に日の出をする場所にわざわざ堂を建てているのです。他にも、磐梯町の慧日寺や、中田観音からも夏至の日に磐梯山山頂から日の出が見られます。早起きして見てください。

御利益間違いないし。

大岩観音や左下り観音は大きな霊験のある岩があります。パワーをもらいましょう。

2 参拝の作法と楽しみ方

一、参拝の作法

参拝する際には

- 1、身なりを整えましょう。
- 2、服装が整っていないと迷いがあります。それでは、願いもかたまりません。
- 3、手を洗い、口を注ぎましょう。
- 4、水が無いときは、できるだけ口のの中もきれいにしましょう。飲酒を伴った参拝は、御利益がありません。
- 5、お賽銭を入れます。
- 6、御縁(円)があるようにと五円や始終(四十)五円があるようにと入れます。十円は縁が遠(十)くなるので入れません。
- 7、4、ワニ口や鈴があれば、鳴らしましょう。
- 8、5、寺では、手を合わせ合掌しましょう。
- 9、神社では、二礼二拍をしましょう。
- 10、6、頭を下げて礼をしましょう。
- 11、7、日頃の感謝の気持ちを唱えましょう。

二、札所巡礼の楽しみ方

境内には、古いものでは、指定文化財となつていものがあつます。指定されているものは、看板があつますので説明書を読みましよう。

また、自然豊かな境内には、大木や古木、池、築山があり植物や四季の花もあつます。さらに、石仏や石碑、有名な人の墓もあつますので、ゆっくりと堪能してください。

モリアオガエル、虫や、蝶、トンボの生物、鯉などの魚もいますので、自然観察には良い場所となります。

3 会津仏教の始まり

日本に仏教が伝来したのは、『元興寺(がんこうじ)縁起』などでは宣化(せんか)三年(五三八年)とされていますが、会津に仏教が伝来したのは、『会津旧事雑考』によると欽明(きんめい)元年(五四〇年)に中国、梁国の青巖(せいがん)が、会津に来て高寺山と笹山(会津若松市湊町)に一字を営み仏教を布教したという。しかし、確証はありません。

奈良の法相(ほっそう)宗の僧徳一(とくいつ)は、藤原仲麻呂(恵美押勝)の四男か六男ともいわれ、東大寺では師の修円から学び「東大寺徳一(得一)」が、会津に仏教を根付かせました。徳一が会津で最初に開いた寺は、慧日寺の草庵(くさあん)勝常寺です。奈良時代、平地の寺院と山岳寺院の関係は、興福寺が平地寺院で山岳寺院が室生寺、法隆寺が平地寺院で山岳寺院が福貴山寺のようにセット関係になっていました。

勝常寺が平地寺院で、奈良の薬師寺(法相宗)と同じ伽藍(がらん)配置で、三重の塔が東西にありました。

慧日寺(えにちじ)が、その後整備された山岳寺院で、奈良では室生寺や福貴山寺、比蘇寺にあたります。

会津の七福神

弁財天 臨濟宗 高巖山長福寺
郡山市湖南町大字赤津字寺ノ前四五九五

『新編会津風土記』によると、元は、東に位置する小枝町地区にありました。会津若松の興徳寺第三世、大圭の開基。元龜二年(一五〇二)赤津の北側にある赤津城主伊藤弾正が、現在地に移しました。赤津宿は、慶長三年(一五九八)に上杉景勝・直江兼続によって整備された宿場です。また『覚上公御書』に、上杉景勝が、「慶長五年三月二〇日、赤津城の再興修理を吉田源左衛門と田川与惣右衛門に命ずる」とあり、城が改修されています。

布袋尊 臨濟宗 宝雲山大龍寺

会津若松市慶山二丁目七二一三

この寺は、武芸や作法の小笠原流初代、小笠原長時公の菩提寺として建てられました。長時は、信濃国の守護大名で武田信玄に敗れ会津に逃れ、北会津町下荒井に領地を貰い住み、若松の米代にも屋敷がありました。天正十一年(一五八三)妻や娘とともに家臣に殺されたため桂山寺として建てられたのが始まりです。一時廃れますが、寛永二十年(一六四三)、保科正之公が山形から移封し、機外和尚が大龍寺と改めます。戊辰戦争では、佐賀藩の陣所となったことから焼失せず残されました。新島八重の山本家墓や末廣の新城家、蒲生氏郷公母の墓、白孔雀が住んでいます。

毘沙門天 曹洞宗 万松山天寧寺

会津若松市東山町大字石山字天寧二〇八

葦名十一代盛信(もりのぶ)公の招きにより、楠正成の三男正儀(まさのり)子、傑堂能勝禪師により応永二十八年(一四二二)に開山します。天正十八年(一五九〇)八月五日、豊臣秀吉が奥羽仕置のために黒川(会津若松)へ家臣約五万人を引き連れ来た時に、背中炙り峠からこの寺に入り、着替えて城下の

興徳寺には入ります。戊辰戦争で、堂が新選組の陣所となっていた事から西軍が焼きます。葦名盛信公の墓、会津藩家老田中家、萱野家、新選組の近藤勇墓、早乙女貢の墓があります。

福祿寿 臨濟宗 大宝山建福寺

会津若松市建福寺前七二二

長野県の伊那市高遠から保科正之公とともに移ってきた寺で、高遠にも建福禪寺があります。保科家の菩提寺で、山形から寛永二十年(一六四三)に大龍寺などとともに移されました。寺は戊辰戦争で西軍に焼かれています。境内にはシダレ桜が二本あります。

大黒天 天台宗 医徳山薬師寺

会津美里町大字橋丸字橋爪九四

会津若松市東山の羽黒山東光寺の末寺でした。『新編会津風土記』によると、平泉の藤原秀衡(ひでひら)の家臣、佐藤清純が平泉より像を持ち出し、建久年間(一一九〇〜九九)藤田に薬師を安置したのが始まりです。その名残として藤田には東北最古の延応二年(一二四〇)年の板碑(いたび)があります。その後この地に寺が移されます。寛永十七年(一六四〇)火災となり、薬師堂の材を埋めた六角経塚もあります。

寿老人 伊佐須美神社

会津美里町高田字宮林甲四三七七

欣明天皇十三年(五五二)に明神嶽よりこの地に移り、会津総鎮守として知られます。戊辰戦争の一八六八年九月十八日、会津藩の佐川官兵衛、新選組の斎藤一ら約千人が伊佐須美神社を本陣とし、三方から長州藩ら約二千人に攻められ、高田街とともに焼失しています。御田植として知られています。

恵比寿 臨濟宗 靈巖山円蔵寺

河沼郡柳津町柳津字寺家町甲一七六